

“テラスケールの新しい物理結果 (LHCの最新成果)”

浅井 祥仁 氏

(東京大学大学院理学系研究科 准教授)

ヒッグス粒子の発見とテラスケール(TeV)での新しい素粒子現象の発見をめざしてLHC加速器は重心系エネルギー7TeVの実験を行っている。

この一年で加速器が調整され、peak Luminosity $3 \times 10^{33} \text{ cm}^{-2}\text{s}^{-1}$ が記録され、約 ($\sim 5 \text{ fb}^{-1}$)の実験データが蓄積された。加速器・検出器の現状、重要な局面にあるヒッグス粒子の研究結果、暗黒物質と超対称性の3本を中心に、2011年全データを解析した最新結果を、2012年までの展望を交えて解説する。

2012年1月24日(火) 13:30 -
於 理研 仁科ホール

Contact: RIBF Nuclear Physics Seminar Organizer
npsoc@ribf.riken.jp
<http://ribf.riken.jp/~seminar/>